

報道関係各位

平成 26 年 3 月 7 日

～もうすぐ東日本大震災から 3 年。あらためて防災を考えてみませんか～

「スタートからちょうど 1 年。改善された『津波警報』」 「震災の記録・教訓 東日本大震災アーカイブ『ひなぎく』」

今月 11 日で、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から 3 年が経ちます。今回は、あらためてご自身の防災意識を高めていただくため、運用を開始して 1 年が経過した「津波警報」についてお伝えします。また、東日本大震災の記録や教訓を次世代に伝えるため、さまざまな団体が保有する震災に関するコンテンツを一元的に検索できるポータルサイト「国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」(今年 1 月現在で約 248 万件のコンテンツが検索可能)についてご紹介します。

津波の高さを「巨大」「高い」という分かりやすい表現で発表

運用開始してちょうど 1 年。迅速な避難を促す内容へと改善された津波警報

東日本大震災において発生した、想定を大きく上回る巨大津波を踏まえて、津波の予想の過小評価を避け、分かりやすい表現で迅速な避難を促す内容となるように改善された津波警報が、昨年 3 月 7 日からスタートしています。そのポイントは次のとおりです。

(1) 巨大地震の発生時、予想される津波の高さを、まずは「巨大」「高い」で発表

(2) 正確な地震規模が分かった場合、発表内容を「巨大」「高い」から「5 段階の数値」に切り替え

(3) 観測された津波が、さらに高くなる恐れのある場合は「観測中」と発表

津波は大量の海水が長時間にわたって流れ込むため恐ろしい破壊力を持ち、猛スピードで襲って来ます。沿岸部や川沿いで、強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときや、津波警報を見聞きしたときは、揺れが収まるのを待って、直ちにその場所から離れて高台や避難ビルなど安全な場所に避難してください。



津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	巨大地震の場合の表現	数値での発表 (発表基準)		
大津波警報	巨大	10m超 (10m<高さ)	<p>沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。</p> <div style="background-color: red; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;"> ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！ </div>  <p style="font-size: small;">津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン</p>	<p>木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。</p>  <p style="font-size: x-small;">10mを超える津波により木造家屋が流失</p>
		10m (5m<高さ≤10m)		
		5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	高い	3m (1m<高さ≤3m)	<p>標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。 人は津波による流れに巻き込まれる。</p>  <p style="font-size: x-small;">写真：豊頃町提供(2003年)</p>	
津波注意報	(表記しない)	1m (20cm≤高さ≤1m)	<p>海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。 津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。</p> 	<p>海の中では人は速い流れに巻き込まれる。 養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。</p> 

<津波警報の内容や、普段から出来る心掛けはこちら>

URL: <http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201302/3.html>

震災の記録・教訓を次世代に伝えるポータルサイト

「国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」

東日本大震災のさまざまな記録・経験を未来に伝え、今後の防災・減災対策や復興・復旧へのまちづくりを生かしていくために、ポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(愛称:ひなぎく)」(<http://kn.ndl.go.jp/>)が昨年3月から公開されています。

この「ひなぎく」とは、国立国会図書館だけでなく他の公的機関や、報道機関、教育機関、NPO・ボランティア団体、そのほか一般企業といった様々な民間団体が連携し、それらが保有する震災に関する音声・動画、写真、文書などの記録を一元的に検索できるポータルサイトです。今年1月現在で、27のデータベースから約248万件のコンテンツが検索可能となっており、被災地の復興支援や今後の防災・減災対策、学術研究や防災教育などへの活用が期待されています。また、もし震災に関する記録をお持ちであれば、国立国会図書館までご連絡ください。



<「ひなぎく」の詳しい紹介や、今後期待される活用法はこちら>

URL: <http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201401/4.html>

政府広報オンラインでは、ソーシャルメディアを活用して、より幅広い情報発信に取り組んでいます。さまざまな国の取組のなかから、“毎日の暮らしに役立つ情報”や“重要な施策の広報キャンペーン”などを日々ご紹介。ぜひ、こちらもお覧下さい。

▼『政府広報オンライン』ソーシャルメディア公式アカウント

Facebook : <http://www.facebook.com/gov.online>

Twitter : https://twitter.com/gov_online



国の行政情報に関するポータルサイト「政府広報オンライン」では、政府の「施策・制度」「取組」の中から、暮らしにかかわりの深いテーマ、暮らしに役立つ情報を、イラストや動画を使って分かりやすい記事でご紹介しています。このたびお届けする「お役立ち News Letter」では、毎号そのうちの一部をピックアップして、みなさまにお伝えしていきます。

▼『政府広報オンライン』トップページ

<http://www.gov-online.go.jp/index.html>

本件に関するお問合せ

内閣府政府広報室 03-3581-7026(直通)